

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム 絆中ノ橋

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100451		
法人名	有限会社 絆		
事業所名	グループホーム絆中ノ橋		
所在地	岩手県盛岡市中ノ橋通り一丁目13番10号		
自己評価作成日	平成 30年 2月15 日	評価結果市町村受理日	平成30年6月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 30 年 2 月 23 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

盛岡市内で利便性が良く、古き良き歴史と新しい環境に近い点は地理的に嬉しいと思う点です。またお祭りの拠点も近隣で散歩感覚で触れることができます。施設としてはソファに座りながら入居者同士が語らい、笑顔が沢山見れる点も誇れるものです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、旧バスセンター隣のマンションの2階にあり、近隣には、銀行やアーケード商店街、学校、病院、マンション等が立ち並ぶ交通量の多い繁華街にある。「地域で自分らしく自立した生活ができる支援」を理念に、地域との関わりを意識した取り組みを進め、町内会はないものの、地域行事に積極的に参加し、ボランティア等に声掛けするなど、地域との交流に着実な拡がりが見られる。職員も環境への馴染みが浅く、日常的な外出支援には至っていないが、室内での体操やゲームを取り入れ、利用者には笑顔や積極性が見られ、またリラックスした様子が窺える。開設2年目とまだ日が浅く、地域との関わりをさらに進め、研修の充実を図りながらケアの向上に努めていく姿勢など、今後が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有のため毎月のカンファレンスの冒頭で 全員での唱和を行っている。言葉づかいは職員が気を付けています。	「人格を尊重し、地域で自分らしく自立した生活ができる支援」とする理念を玄関に掲示している。プライドを傷つけない言葉や態度に極力気をつけ、また地域の情報収集に努め、地域で自分らしい生活ができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中ノ橋通1丁目には町内会組織が存在しておらず。開所して一年になるが地域とのつながりが持っていない。ただし地元のイベントには散歩として出かけています。	地域の祭りや七夕まつり、コンサートに出かけ、ホームにはボランティアの他クリスマス会には保育園児が訪れている。町内会がないため、独自で地域の情報を集め、地域消防団や近隣の施設との連携を拡げたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流として、歌のボランティアなどが訪れることがあり、入居者とのふれあいの時をもっています。今後はさらに広げたいと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回は開催しているものの、参加者は少ない、包括支援センターは毎回参加していただけています、これまでは民生委員・交番の警察官が参加され情報提供をしています。	メンバーは、家族や民生児童委員、地域包括支援センターの職員で構成され、ゲストとして交番や他の施設長が参加している。利用者の状況や行事の写真を添えて報告し、人材確保や地域交流等の提起した課題に委員からアドバイスを得ている。警察から行方不明者等の協力についての提案などある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月発行のニューズペーパーをもとに、施設の活動を伝えています。	要介護更新認定申請時や運営推進会議録、広報を届けながら、運営のアドバイスや地域の情報を提供されるなど、毎日のように出向き、電話連絡も交えて、市とは緊密な関係が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて職員の研修が不十分である。ただし直接的な身体拘束は発生していません。	当初利用者が一人を出掛けた経緯があり、家族の強い希望と職員の安全への不安からやむなく日中も施錠している。現在出たくなる利用者はいないが、研修等により正しい知識の共有を図りながら、鍵をかけない生活の工夫をしたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止関連法について」の研修は今後の課題です。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修や学習会はまだ持っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	手順に沿って説明し理解と納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や利用料の支払いの機会などを通じて家族の意向や意見を述べられるようにしている。	広報を毎月送付し、遠方の家族には希望でDVDを送っている。家族訪問時には、必ず声掛けし、記念写真を撮るなど和んでいただき、意見や要望を聞いている。家族からは歩行力の維持等個人的要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にあるいは毎月のカンファレンスで職員の意見や提案を聴く機会を持つようにしている。全員が見られるノートの活用も行っている。	日常業務や会議、申し送りノートにより職員の意見を把握している。案件に応じ法人に諮り、迅速な対応をしている。年1回開設者による個人面談があり、テーブルの配置や物干し場、収納方法、職員体制等の改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	条件の整備は徐々に整いつつあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今後は資格取得にむけて費用綿でも支援する制度を整えてまいります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修会、定例会には参加し交流して情報の共有に勤めています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	良く語らい、不安をなくすように努め、笑顔が生まれる雰囲気づくりに配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ普段の様子を分かりやすく、写真や映像を使ったりして説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療面も含め、出来る限りの相談に応じています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	24時間、共にいることはもちろん、表情の把握に努め他の入居者との関係を良いものにするよう橋渡しをしたり、知り合う機会を積極的に作ったりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会は大事に考えています。個々の誕生日や記念日を大切に祝い、その様子は写真等により小まめに伝えて喜びを共有しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の中でも子た孫、本人の兄弟も会いに来ていただいています。絆の様子は写真新聞で報告しています。	家族、姉妹等の訪問があり、家族とデパートや馴染みの床屋や美容院へ出かけ、正月には外泊して初詣し、また、葬儀へ参列したり、通院後外食などする人もいます。2ヵ月毎の訪問床屋と美容院は新しい馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事場面ではそれぞれの指定の場所が落ち着く場所であり、くつろぎスペースにおいては職員が入らなくても、入居者同士の会話が成立して和やかな雰囲気を出しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の、次の利用場所の選択や相談、その支援は出来る限りさせていただいております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初年度、完全ではないにしろ、現在はここが自分の居場所である感覚は確実に定着しています。笑顔がその証明です。	利用者の言葉を傾聴し、言葉に表せない人は、表情や行動で察知し意向の把握に努めている。得意なことを引き出し称える事で、無口だった男性が昔はモテたと話したり、帰宅願望がみられた人が帰りたと言わなくなったりしている。また、レクに参加しなかった人が現在は参加する様にもなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全ての入居者の生活歴などはほとんど把握して、職員が接することが出来るようになりました。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る能力、力を発揮できるような見守りもしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの機会を有効に利用してサービスの提案やケアの留意点などを話し合っている。その内容を反映して介護計画の作成を行っている。	毎日のケア記録と個人記録を基に家族の意見を入れ、医師、看護師の意見も加味してケアプラン原案を作成し、ケア会議で話し合っ てプランを作成している。ケア記録は計画実施表で毎日チェックしている。3か月ごとにモニタリングを実施し、必要な時には見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録の記帳の連続で報告がなされ、申し送りノートを活用しての職員の欠点の修正がなされてきました。その上での介護計画であります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	初年度としては、職員個々の経験値の低さで、能力知識以上は求めず、出来るレベルでのサービスをして来ました。2年目の開花が期待されます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては、街中ゆえの活気のある暮らしの実態がないので、イベント等の把握から始めています、入り込む努力をしなければそれは実現不可能な課題です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的訪問診療を基本にしながら、それぞれのかかりつけ医との連携を図っている。	ほとんどの利用者が毎月の訪問診療を受診し、訪問歯科も月1、2回ある。外来受診時は家族対応としており、口頭で日頃の様子を伝えている。総合病院等の受診時は、医師の指示で必要な書類を準備し適切な医療に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と情報を共有しながら適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	初年度であり、まだ1ケースしか実績がありませんが、1か月の入院を経て入居者本人がいい方向に変化した事例はあります。また病院関係者は主治医以外通院での病院とは関係性をもつことが出来てきました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初年度ということもあり、選択が迫られる場面に来て初めて主治医や家族と話し合いを行うことが多い。チームでの支援を行うところまでは至っていない。	入居時に、看取り指針について、本人・家族に説明し、併せて、医療行為は出来ないため、かかりつけ医と相談し事業所ができる範囲で支援する旨を説明し理解を得ている。看取りの経験はないため、研修などは、必要に応じて実施する予定としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだまだ知識・能力共に力不足である。研修等これからの課題として新年度の課題です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	そもそも地域に暮らしの実態、組織がない所なので同一建物の上階の住民との関わりが自然と増えて来ることに期待しています。	12月にエレベーターを使った火災避難訓練を実施し、次回は消防署指導の下での総合訓練を予定している。自動火災通報は全員に連絡され、発災の備え非常用電灯や反射式ストーブ、ガスコンロを用意している。	町内会がなく地域の協力を得にくい環境にあるが、まず身近な同じマンション住民の協力から始められることを期待する。また、夜間想定避難訓練にも取り組まれることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まだまだ不完全ですが、職員の入替えに伴ってそれが出来る職員集団になりつつあります。。	人生の先輩であり、プライドを傷つけない言葉や態度で接している。朝の挨拶は一人一人に声を掛け、利用者も返事をする事で、孤独感を感じさせないようにしている。入浴や排せつ時にはドアを閉め、更衣は居室で行うなどプライバシーに配慮した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々において、日頃の関わり合いが、温かくなってきて、感情の起伏、会話の盛り上がりが良くなってきました、初年度には素晴らしいと感じます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだまだ、職員都合による考えが優先になっている場面はあります。チームとしての研鑽が今後重要な要素と思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員個々の資質の問題と提案がしやすい職場環境の創出が今後の課題です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の準備を行うことはしていないが出来るだけ総意の好みを活かせるようにしている。後片付けは一緒に行うこともある。笑顔や会話が美味しさを生んでいます。BGMの効果もあります。	食材は業者に委託し、利用者の嗜好も取り入れて職員が献立し、一緒に食べている。誕生日には好物の他、お酒も出している。利用者は出来る範囲で後片付けに参加しており、今後は食事作りも検討したいとしている。	利用者の前向きな力を引き出しながら、全員が参加できるよう働きかける等の食事の場面を活かした取り組みは、利用者の張り合いや自信に繋がるきっかけ作りに必ずやなるものと考えられる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量やバランス、水分量、体重、本人の習慣などから総合的に判断して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろんだが、定期的な訪問歯科による管理も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に違う、能力や羞恥心への職員個々の感性の高まりが今後の課題、研修テーマになってくると思います。	排泄チェック表により、日中は全員トイレを利用し、夜間は2人のオムツ使用者以外は全員トイレであり、ほとんどの利用者がリハビリパンツを使用している。トイレ誘導時はさりげなく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や体操は必ずレクリエーションの中に組み込んでいくようにしています。ただし加齢による内蔵の機能低下者には薬の調整もしながら個々に考えられてきてはいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その部分は午後2時くらいからの入浴と固定させていただいております。日に3人の交代勤務では個々の希望に添った対応は考えられません、使用後の掃除、把握の面での事故リスクは避けられません。	夜間の入浴は勤務体制上対応困難なため、週2回午後2時からの入浴としている。入浴時は見守り中心の一部介助としているが、自力で入浴できるようになったリフト利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そこは、絆のリズムが入居者個々に染み付いた時に、安心・安定した暮らしのリズムになると考えています、個々に極端なバラバラは逆に不安を生むのではないのでしょうか。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	そこ点は初年度、まだ1年未満の入居者との関わりでは見極めは不可能だと思います。しかし学びは常にしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	徐々に生活の中での役割を果たせるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初年度、まずは空間に慣れる、周辺地域を職員も知ることから始めていて希望に添った外出にはほど遠い1年でした、家族の協力がある方はお願いしていますが出来ない方もあり、差はあります。今年は出来る範囲での支援でした。	近隣は、交通量が多く歩道が少ないため、室内でゲームや運動に取り組んでいる。家族と毎週マッサージやデパート、外食へ出かける利用者もいる。ドライブでは花見や紅葉狩りへ出かけ、弁当を楽しんでいる。今後は日常的な外出の機会を増やしたいとしている。	利用者の気分転換やストレス発散の為に、ぜひ希望に沿った外出支援が出来るよう職員間で協力し合い実行する事を期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	二人だけ財布で金銭を持っていましたが認知症の部分での物盗られの報告があり、1年後の現在はどなたも持ってはいませんが、希望はあるかとは思いますが、病気そのものの普通の金銭を扱う外の世界との支援は出来かねています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	この1年間1度だけそのような申し出がありました。家族に内容確認をして、その方の病気による思い違いでありました。その他には絆にきた時点で手紙のやり取りは出来ない状態でした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鉄筋のマンションという建物の間取り・構造上季節感を感じにくいです。装飾という掲示物や職員からもたらされる情報により感じていただくよう努めています。	共用空間を食事と居間のスペースに分け、居間スペースにはレクリエーションに合わせ簡単に移動できるソファとテーブルがある。室内は温度と湿度が適度に管理され、季節の飾りつけもある。レクリエーション時には季節の音楽をかけ、利用者は普段もテレビを見ながら互いに談笑している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになるには居室にいたり、気の合った方との語らいはテーブルやソファで出来ていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に家族とは相談して、持ち込んでいただいたり、こちらでも写真等装飾としての工夫を年ごとに変化していく、歴史を刻んでいく物として行っています。	備え付けは電動式のベッドと洋筆筒、クローゼット、エアコン、換気扇、物干しや洋服かけ用のラックがあり、利用者によっては洗濯物を居室に干している。持ち込まれた遺影や家族の写真、机や椅子、DVDプレイヤーや小説、枕草子等の好みの本が置かれ、自分の部屋らしくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に危険の度合いが違い、心情面も違うので、こうあるべきとの決め事はしておりませんが、職員自身の感性の違いもあるので、見守っています。おいおいの気遣いの変化を求めています。		